



無セキツイ動物昆虫類

不完全変態

昆虫以外の無セキツイ動物

セキツイ動物

無セキツイ動物昆虫類

不完全変態

昆虫以外の無セキツイ動物

セキツイ動物

アブラゼミ

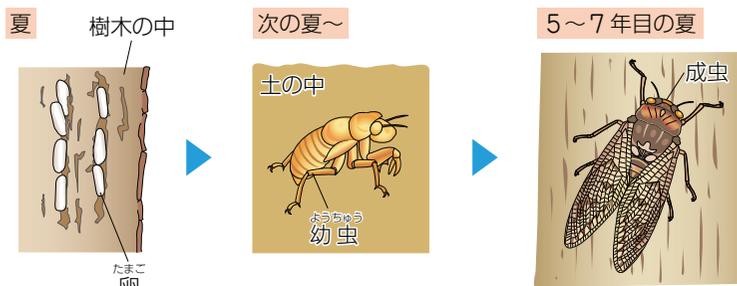


アブラゼミは、北海道から九州に生息しているセミです。(1)になるとおすの成虫が樹木にとまり、「ジージー」という声で鳴いているのが見られます。(2)によく鳴きます。



成長のようす

アブラゼミなど、セミは(3)です。



樹木の中に産みつけられた卵が次の(4)に(5)すると、幼虫は(6)にもぐります。幼虫は(7)をくり返して成長しながら、(6)で4〜6年過ごします(冬ごしは1年目は(8)、2年目からは(9)のすがたです)。

5〜7年目の夏に幼虫は土から出て木に登り、(10)して成虫になります。成虫は(11)すると、1〜2週間で死んでしまいます。

食べ物とすみか

アブラゼミの幼虫は土の中にすみ、樹木の(12)から(13)を吸って食べます。成虫は樹木の上にすみ、(14)から(13)を吸って食べます。

からだのつくり

アブラゼミの幼虫は土をほるため前あしが(15)のようになっています。

幼虫も成虫も、樹木の根や幹に口をさして樹液を吸うため、(16)です。

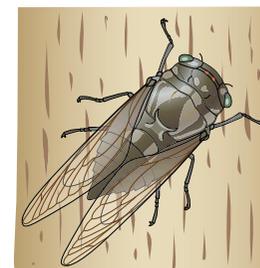
成虫の口



クマゼミ

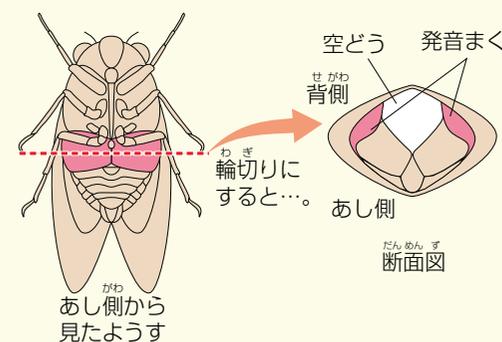


クマゼミは、暖かい地域を中心に生息しているセミです。(17)になるとおすの成虫が樹木にとまり、「シャーシャー」という声で鳴きます。(18)によく鳴きます。



+

セミのおすの腹には「発音まく」があり、ここを動かすと音が出ます。発音まくで出た音は腹の空どうでひびくため、大きな音になります。セミのおすは大きな音を出して、めすを引き寄せます。



ツクツクボウシ



ツクツクボウシは、日本全国に生息しているセミです。「ツクツクホウシ」ともいわれます。(19)になるとおすの成虫が樹木にとまり、「ツクツクホーシ」という声で鳴きます(地域によって、別の時期に鳴く場合もあります)。



+

アブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ以外のセミもいろいろな声で鳴きます。ミンミンゼミは午前中によく「ミンミンミン」と鳴き、ヒグラシは朝方や夕方によく「カナカナカナ」と鳴きます。

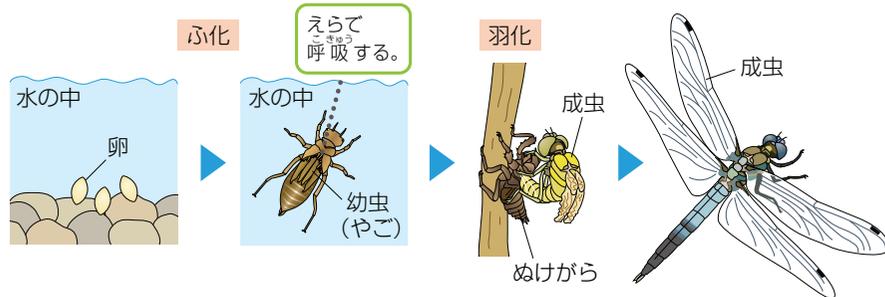
シオカラトンボ



シオカラトンボは、(20)から(21)にかけて、田んぼや池の近くを成虫が飛んでいるのがよく見られるトンボです。

成長のようす

シオカラトンボなど、トンボは(22)です。卵が(23)すると、幼虫((24))は(25)をくり返しながら成長します。やがて幼虫は(26)し、成虫になります。



シオカラトンボは(27)で(28)のすがたで(29)します。春になると水の外に出て(30)し、成虫になります。成虫は(31)に(32)します。

シオカラトンボは、1年の間に(33)のサイクルを2回くらいくり返しますが、秋に(34)した幼虫は、そのまま(35)のすがたで(36)します。

食べ物とすみか

シオカラトンボの幼虫は(37)にすみ、ほかの(38)や、オタマジャクシなどの(39)を食べます。成虫は、水辺の近く(陸上)にすみ、ほかの(40)を食べます。

からだのつくり

トンボの成虫は、たくさんの小さな目が集まってできた、大きな(41)をもちます。また、(42)もあります。

トンボの幼虫も成虫もほかの昆虫などを食べるので、(43)です。

成虫の口



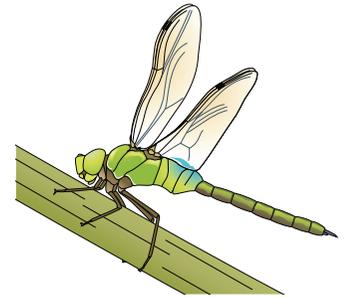
かむ口

ギンヤンマ



ギンヤンマはトンボのなかまで、(44)から(45)にかけて、成虫が田んぼや池の近くを飛んでいるのが見られます。

ギンヤンマのからだはトンボのなかまの中では比かくの大きく、あざやかな(46)をしています。



+プラスのシ

トンボのなかまの幼虫は「やご」ともよばれます。ほとんどの種類のやごは水の中でほかの昆虫や小さな動物を食べて生活します。えらがあり、水の中にとけた酸素を使って呼吸することができます。

オニヤンマ



オニヤンマはトンボのなかまで、(47)ごろから(48)にかけて、成虫が川や池の近くを飛んでいるのが見られます。

オニヤンマのからだは、日本のトンボの中で最も大きく、特ちょう的な黒色と黄色の(49)になっています。

オニヤンマは、卵が(50)すると、(51)のままのすがたで数年間成長したあと、(52)します。

